

学生の「遊び塾」開講 あす・秋田県立大

大学生の人間力向上を狙い、秋田県立大は9日、学生の「遊び」を支援する「薫風・満天フィールド塾」を開講する。大潟村に所有する農場を開放し、「村づくり」と銘打ったログハウスづくり、ホテルの生息地づくりなどを実施する。遊びを通じて学生同士のサークル形成を促し、東北の他大学とのネットワーク構築も支援していく。

フィールド塾は、国と県立大が費用を負担し、放課後や休日、学生に思い切り遊んでもらうのが目的。既に30人の学生が入塾を希望し、スノーモービル遊び、天体観測、きりたんぼづくり体験などを計画している。

開講日の9日は男鹿市の北浦港で、季節ハタハタ漁を見学し、ハタハタ鍋を試食する。12月はハタハタすしの製造体験、なまはげ衣装（ケデ）づくりもあり、大みそかにはな

農場開放、大学が全面支援

まはげ体験などが予定されている。

県立大は、最近の学生は①自然との交流や体験②人との交流③社会との交流一が不足し、行動力や創造力が弱いと分析。遊びの機会を与えることで、人間性豊かな人材を育成し、勉学意欲も向上させようと企画した。

フィールド塾から複数の学生サークルを誕生させ、2年後には東北・北海道の農業学生フォーラム、3年後には全国農業学生フォーラムの開催を目指し、大学間のネットワークも構築する。

学生の遊びを大学が全面支援するユニークな取り組みだ。塾長の露崎浩准教授は「本来なら大学が取り組むことではないが、時代が学生の貴重な体験機会を奪った面がある。遊んで感動することは創造へつながり、社会に貢献する人材が育てられる」と話している。

2007.12.8 河北新報